

県立広島大学・ひろしま美術館連携公開講座

バラの軌跡

古来、バラはその色、形、香りで多くの人々を魅了してきました。バラはどのように生まれ、人々に親しまれ、描かれてきたのでしょうか。この講座では、植物遺伝子工学、文学、絵画の各方面からバラの魅力について考えます。

日時 平成24年10月13日(土)・20日(土)・27日(土) 13:20~15:50

会場 県立広島大学 広島キャンパス (広島市南区宇品東1-1-71)

10月13日 (土)	13:20~14:30	バラの誕生~園芸バラの軌跡~	県立広島大学生命環境学部教授 入船 浩平
	14:40~15:50	バラの画家 ルドゥーテ	ひろしま美術館主任学芸員 渡辺 純子
10月20日 (土)	13:20~14:30	白居易の薔薇の花束	県立広島大学人間文化学部教授 柳川 順子
	14:40~15:50	身近なものを情感豊かに描いた 薔薇の画家アンリ・ル・シダネル	ひろしま美術館学芸部長 古谷 可由
10月27日 (土)	13:20~14:30	文学に描かれたバラ	県立広島大学人間文化学部教授 天野 みゆき
	14:40~15:50	バラの図像学	ひろしま美術館主任学芸員 水木 祥子

募集人数 80名

受講料 無料

対象 どなたでも

申込方法 往復はがきの往信面の表に 郵便番号、住所、お名前、ふりがな、電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、お名前()様)をご記入の上、平成24年9月27日(木)(消印有効)までに次のところにお送りください。

〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71
県立広島大学地域連携センター「バラの講座」係
電話 082-251-9534

受講案内は締切日以降にお届けします。なお、申込多数の場合は抽選となる場合があります。

申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

主催 県立広島大学地域連携センター・公益財団法人ひろしま美術館

講座概要

入船浩平「バラの誕生～園芸バラの軌跡」

一重で一季咲きの原種バラがどのような変遷を経て八重で四季咲きの園芸バラへと進化したのか等、植物学や園芸学あるいは近年の遺伝子工学の立場からバラという植物のもつ魅力について紹介します。また、話題となった青いバラがつくられた遺伝子組換えの手法などについても取り上げてみます。

渡辺純子「バラの画家 ルドゥーテ」

ナポレオン皇妃ジョゼフィーヌは、パリ郊外のマルメゾンの別邸に熱狂的ともいえる情熱をもってバラを集めました。彼女のバラ・コレクションの記録画家の役割を担ったのがピエール・ジョセフ・ルドゥーテ（1759- 1840）でした。今回はルドゥーテの《バラ図譜》を中心に当時の植物画を紹介します。

柳川順子「白居易の薔薇の花束」

中国詩の世界では、比較的新しい題材である薔薇。それだけに、その描かれ方には、詩人個人の感受性が色濃く表れると見る事ができるでしょう。そこで、私たちにも馴染みの深い白居易の詩を取り上げて、彼が描く薔薇の様々な姿、色、香りを愛でながら、詩人の人柄にも思いを馳せてみたいと思います。

古谷可由「身近なものを情感豊かに描いたバラの画家アンリ・ル・シダネル」

20世紀初頭にフランスで活躍したアンリ・ル・シダネル（1862- 1939）は、パリの北西約80kmの寒村ジェルプロワに住んで、多くのバラの絵を描きました。今ではバラの町と呼ばれるこの地と、そのきっかけを作ったル・シダネルを紹介することで、フランス絵画におけるバラの持つ意味を読み解きます。

天野みゆき「文学に描かれたバラ」

美、豊穡、精神的愛、美德、墮落、欲望、死 時代によりあるいは作家により、バラには様々な意味、時には相反する象徴性やイメージが与えられてきました。ギリシア神話、シェイクスピア、オスカー・ワイルドの作品に描かれたバラについて考えてみましょう。

水木祥子「バラの図像学」

バラは、聖母マリアやヴィーナスのアトリビュート（持物）として宗教画や神話画のなかで描かれてきました。その際に、バラはどのような象徴性を持ち、どのような意味が込められていたのでしょうか。中世、ルネサンス、バロック期の絵画とともに紹介します。

